



来賓挨拶

ファイザー株式会社 代表取締役社長

梅田 一郎

出捐企業であるファイザーを代表致しまして、一言ご挨拶申し上げます。

まず、本年助成を受けられた29名の先生方、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。そしてまた2年後、この会場で研究成果のご発表を聞けることを大変楽しみにしております。選考にあたりましては、大変ご多忙の中お時間を割いていただきました選考委員の先生方、そして選考委員長の永井先生、本当に有り難うございました。

さて、今年は3月11日に東日本大震災があり、その後、福島原発事故という、未曾有の災害の年でありました。被災された皆様のご苦勞は本当に言葉に表せないものがあると思います。私どもの会社でも福島県に約60名の社員がおり、私も震災後何度かその社員たちの所へ行っております。福島や郡山をお訪ねになった方々はご存知の通りですが、駅を降りると、さして変わる様子もないのですが、市内の大きな公園に行くと除染活動のためにロープが張られて、子供さんの姿もないというところを見ますと、今回の震災そして原発問題の大きさを痛感します。今回ご参加の皆様方あるいはそのご家族の方々にも被災された方がいらっしゃるかと思います。心よりお見舞い申し上げます。

また、今回の震災では様々な医療・福祉の問題点も浮き彫りになっております。ヘルスリサーチの分野においても重要な課題が突きつけられているように感じられます。研究者の皆様方が様々な形で今後さらに復旧・復興に、ヘルスリサーチの観点からもご貢献していただけることを期待しております。

ファイザーヘルスリサーチ振興財団は、おかげさまで公益財団法人に移行してちょうど1年が経過しました。今回の公益認定は、財団が我が国のヘルスリサーチの振興に大きな役割を担ってきたことが高く評価されてのことであると考え、出捐企業としても大変名誉に思っております。

財団設立当初のことからのお話は岡部先生から十分にさせていただきましたが、当初は、このヘルスリサーチという言葉の理解が、応募してくださる先生方もまだ十分でないところがあって、選考も大変苦勞されたということも聞いております。しかし今年は「社会に定着しつつあるヘルスリサーチ」というテーマが掲げられるところまで来ているということであり、これもご指導いただいている先生方のおかげと、大変有り難く思っております。

財団事業の柱である研究助成も20年になり、これまでの総件数が644件、助成金の総額が16億円になっております。大変高い倍率の中から選ばれた研究の中には、本当に素晴らしいものがあると聞いております。今年の選考のご苦勞や詳細に関しましては、この後、永井先生よりご紹介がいただけるものと思っております。

次に、私からファイザーの近況や会社を取り巻く環境について、少しご報告をさせていただきます。

ファイザーは世界の医療用医薬品市場において、現在もリーディング・カンパニーとしてのポジションを堅持しており、先ほど岡部先生からも高くご評価いただきましたが、実は内情的には大型品目の特許切れということもあって、苦勞している部分もたくさんございます。特に、皆様もご存知のように、本社のある米国では9月にオバマ政権が財政赤字削減の一環として、10年間で3,200億ドルという非常に大きな医療費削減案を提案しております。米国だけではなく、イギリス、ドイツ等多くの先進国で医療費抑制策が次々検討され、実施もされているという状況です。世界的に経済が低迷する中、医療・医薬品を取り巻く環境も大変厳しいものがあると感じております。

先日の新聞に2010年の世界の企業の研究開発投資額のランキングが発表になっておりましたが、あらゆる産業を通じて研究開発投資額の世界トップ5の中で3社までが製薬企業で、ファイザーもこの中に入っておりました。これは、きわめてハイリスクな医薬品の研究開発に継続的に多額な投資をし続け、そのことを通じて医療の発展や患者さんの治療に役立っていくことにこの産業の宿命があるということですが、現在の大変厳しい市場環境を考えますと、現地法人の立場にあっても、舵取りの難しさというものをつくづく感じているところです。

日本国内の事業については、日本におけるメーカー・ランキングで何とかリーディング・ポジションを争うようなところまで参りました。新製品や適応追加など、毎年平均して7品目の承認を目指しております。医療現場で必要とされる医薬品を1つでも多く確実にお届けすることで、今後も日本の医療に貢献して参りたいと考えております。

弊社のビジョンで「日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になる」ということを掲げておりますが、このビジョンの実現のために、生命関連産業に相応しい社会貢献プログラムとして様々なことに取り組んでおります。今年は特に大震災を踏まえて、被災後半年ほどしたところで多くの方が発症されるというPTSD (Post-traumatic Stress Disorder) の疾患や治療に関する知識を、広く被災地の医療従事者の皆様方に提供するための講演会「東日本大震災心のケア支援プロジェクト」をスタートさせました。今年10回、来年50回、被災各地で開催し、3年間に亘って展開していくこととしました。

今後とも、この財団活動の支援を始め、様々なプログラムを通じて、継続的な社会貢献を実施していきたいと考えております。

さて、今年初め、財団発足時よりご指導いただいて参りました開原成允先生が突然他界されました。このフォーラムにおきましても、お一人お一人のご発表に丁寧にご質問・コメントされていたお姿を、昨日のここのように記憶しております。先生のご指導・ご貢献に改めて深く感謝の意を表したいと思っております。

終わりにになりましたが、本日助成を受けられた先生方とフォーラムに参加いただいた先生方のますますのご健勝とご発展を心より祈念して、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。